記者発表資料

平成２０年１０月１０日

歩行者等と自転車利用者の安全・安心な通行空間形成に向け、社会実験を実施します。

「自転車安全利用推進協議会」では、バス停車帯を閉鎖した歩行者等と自転車利用者の分離による安全・安心な通行空間形成に向けた試みとして、「新町通り（主要地方道　青森停車場線）」でバス停車帯を閉鎖した「社会実験」を行います。

【社会実験実施の背景】

■「新町通り」は、ＪＲ青森駅へ通じる路線であり、朝夕は通勤・通学者、日中は沿道店舗への買い物客等の多くの歩行者、自転車が往き来する通りであり、円滑な道路交通確保の観点で、バス停車帯や自転車通路が整備されています。しかし、自転車通路がバス停車帯部分でこれを避けアーケード内を通過するため、歩行者等と自転車が輻輳し、危険な状況にあります。

■このため、歩行者等と自転車の輻輳を無くし、安全・安心な通行空間形成が求められています。

【社会実験実施の目的】

■歩行者等と自転車の分離による安全・安心な通行空間の形成を図るために実施するバス停車帯閉鎖による自動車交通への影響調査のために実施します。

■影響調査は、バス停車部分での自動車交通混雑の状況、実験区間内での自動車の交通量・通過時間・旅行速度の変化等について検証します。

【社会実験の概要】

■実験路線：主要地方道　青森停車場線（新町通り）

■実験区間：青森駅前交差点から柳町交差点まで（約Ｌ＝９００ｍ）

■実験期間：平成２０年１０月２４日（金）、２５日（土）

■時　　間：７時～１９時（１２時間）

【参考】

■「新町通り」を含む青森地区は、平成２０年１月１７日に国土交通省と警察庁が、今後の自転車通行環境整備のモデル地区として指定した箇所です。

※今回の社会実験の検証結果は、まとまりしだい発表いたします。

※今回の社会実験の詳細内容については参考資料の１～３をご覧下さい。

※記者発表会：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

【問い合わせ】

「自転車安全利用推進協議会」

事務局　：　国土交通省　青森河川国道事務所　交通対策課

課　長　渋谷（しぶたに）　正之（まさゆき）　TEL：017-734-4575

（資料－１）

「自転車安全利用推進協議会」

※順不同、敬称略

	所　属　機　関	氏　　名	役　　職
会長	国土交通省東北地方整備局 青森河川国道事務所	安陪（あべ）　和雄（かずお）	所長
委員	青森県県土整備部 道路課	田村（たむら）　孝一（こういち）	課長
委員	青森県警察本部 交通部　交通規制課	舛澤（ますざわ）　正義（まさよし）	課長
委員	青森県高等学校ＰＴＡ連合会	相川（あいかわ）　順子（じゅんこ）	会長
委員	青森交通安全協会	山内（やまうち）　道男（みちお）	青森交通指導隊 隊長
委員	青森市新町商店街振興組合	成田（なりた）　雄一（ゆういち）	理事長
委員	青森市町会連合会	山上（やまがみ）　吉昭（よしあき）	副会長
委員	青森市老人クラブ連合会	今本（いまもと）　芳穂（よしほ）	会長

事務局	国土交通省東北地方整備局　青森河川国道事務所　交通対策課
	青森県警察本部　交通部　交通規制課
	青森県警察本部　交通部　交通企画課
	青森県県土整備部　道路課
	青森市都市整備部　道路建設課

資料－２

歩行者も自転車もバスの利用者も
安全・安心な新町通りの実現に向けて

「バス停車帯を閉鎖」した社会実験を実施します。

～主要地方道　青森停車場線（新町通り）～

社会実験の背景

主要地方道青森停車場線（新町通り）は、ＪＲ青森駅へ通じる路線のため、朝夕は鉄道を利用する通勤・通学者の通りとして、また日中は通り沿いに並ぶ店舗への買い物客が行き来する通りとして、歩行者や自転車、自動車の交通量が非常に多い状況となっています。

これまで新町通りでは、歩行者と自転車の安全性や快適性を確保するため、アーケード（歩行空間）の車道側に自転車通路を整備したほか、自動車交通の渋滞緩和を目的にバス停車帯を設置しています。

しかし、バス停の箇所において自転車通路がアーケード（歩行空間）内に移行して通行する構造となっているため、自転車と歩行者が接触する可能性があり、危険な状況となっています。

現状：バス停箇所で混在する自転車と歩行者



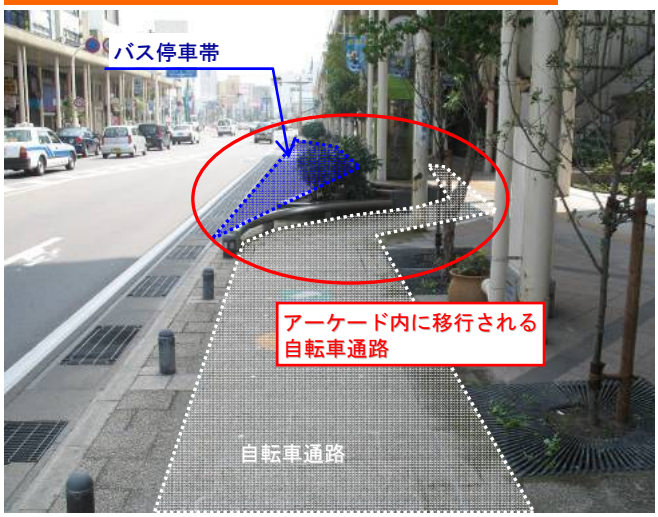
社会実験の目的

アーケード（歩行空間）内を通行する自転車が多い要因として、バス停箇所で自転車通路が移行される構造による走行性の低下が大きく影響していることが考えられます。

よって、将来的にバス停車帯を無くして自転車通路の走行性を確保することで、自転車が快適に通行できる空間の創出を図り、歩行者も自転車も安心して通行できる道路の実現が可能かを検証するものです。

この実験では、バス停車帯の閉鎖により路線バス等が車道上で利用者の乗降を行うことで、自動車交通に及ぼす渋滞や通過時間等の影響を検証します。

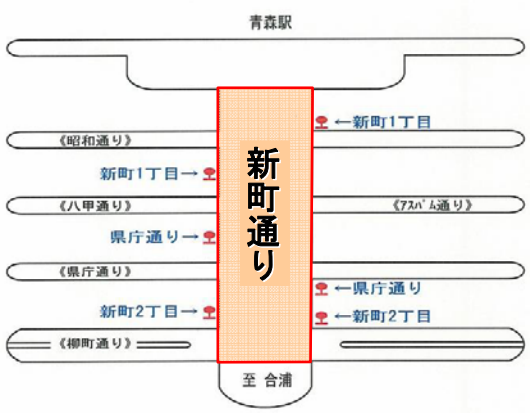
現状：バス停箇所で移行される自転車通路



社会実験の概要

■実験路線：主要地方道　青森停車場線（新町通り）
■実験区間：青森駅前交差点から柳町交差点まで（約Ｌ＝９００ｍ）
■実験期間：平成２０年１０月２４日（金）、２５日（土）
■時　　間：上記期間の【７時～１９時（１２時間）】
■実験内容：バス停車帯を閉鎖した歩行者等と自転車利用者分離による安全・安心な通行空間形成
■検証内容：①バス停車における交通渋滞
②実験中における区間内の通過時間
③自動車交通量
④自動車の旅行速度
■実施機関：自転車安全利用推進協議会
事務局　国土交通省青森河川国道事務所・青森県警察本部
青森県県土整備部道路課・青森市

社会実験区間：青森駅前から柳町交差点まで



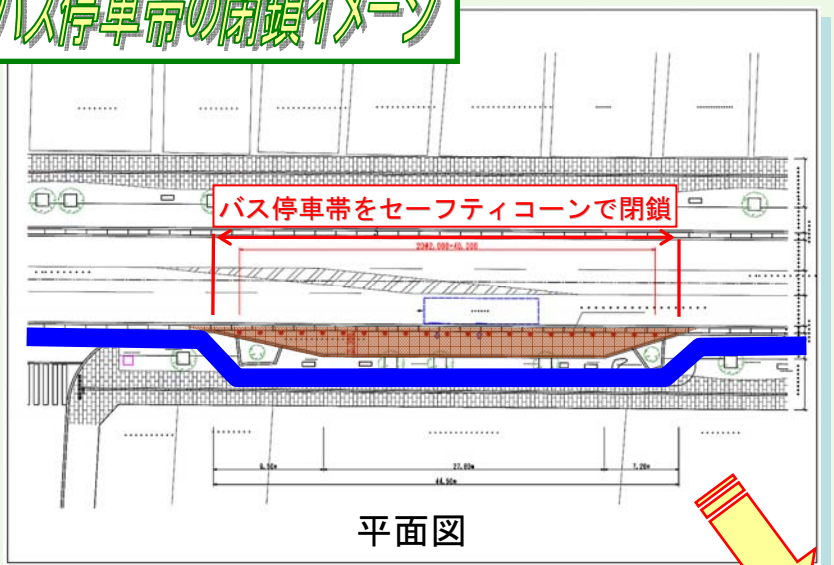
資料－3

社会実験の位置等

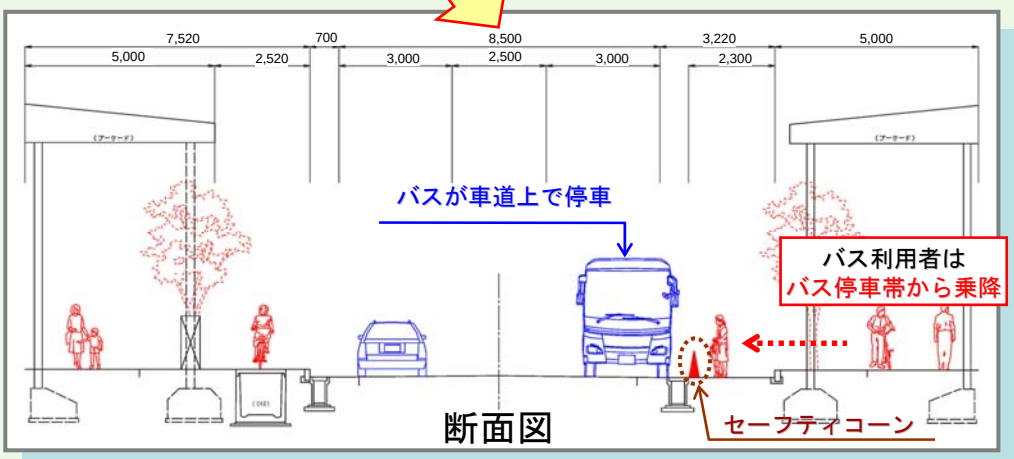
社会実験の位置図



バス停車帯の閉鎖イメージ



平面図



断面図